

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

LETTER

109

2008.12

- スタディツアー（インドネシア、ビルマ）報告
- 研修生レポート
- 第13期国内研修生紹介

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげて、平和（Peace）と健康（Health）を担う人づくり（Human Development）をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 靖雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E-mail: phd@mb1.kisweb.ne.jp
URL: http://www.kisweb.ne.jp/phd
定価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



山の村で出会ったお父さん。
遠くからは何をのせているのか
わからなかった。
近づいてみてびっくり。
おとなしく乗っかっているところがすごい。

東西南北 問題解決 取組日記

久しぶりの再会

7月のネパールに続いて、8月後半に、インドネシア、スマトラにでかける。昨年から行程の都合で、ジャカルタで一泊している。空港に着き、外へ出たところで、私たちを呼びとめる声が聞こえる。宿の人かと思って目をやると、そこにはしばらく会うことができなかった研修生がいた。モハメド・ファイジンさん、88年来日の研修生だ。帰国し、大学での勉強をしながら仕事をし、将来を模索していたが、96年に西スマトラからジャワに移り、ここ十年以上フォローアップで訪ねても、会うことができなかった。その彼がこちらには何の予告もなく、家族をつれて、私たちを出迎えてくれた。聞けばスマトラの研修生からスタディツアーの日程を聞き、日本からの飛行機を待っていたという。宿に荷物を置き、十数年ぶりの再会をジュースで乾杯（ここはイスラムの国）し、話を聞いた。

今は西ジャワ州ベカシという町で、小さな信用組合のような事務所で働いている。98年に結婚し、子どもが2人。日本で学んだ組合の勉強が役に立っているようだ。こうしてしばらく連絡の取れなかった研修生とまたやりとりができるいい関係。うれしいひとときだった。



研修生、子ども、ファイジンさん

村で使える力のひとつ

西スマトラ州の州都バダンからまず向かったのは研修生の村から小一時間のディアタス湖のほとりまで開かれていた地域物産展の会場。独立記念日にあわせ、今年から始まったソロ郡主催の大がかりな行事である。研修生たちも村の産物をテナント下に並べ参加していた。

97年からおつきあいを始めたこの山の村の人々は他の国、地域ではあまり感じられない行政とのつながりをもっている。2000年度研修生アフダールさんが現在村長であることも、行政とのパイプが太い一因だろう。道路、農業用水路といった基盤整備、植林や新しい作物にとりくむといった農業振興などに助成金を引き出している。日本で広がった視野、身につけた知識・技術を村人に伝えていく際に、まず足元に何があるかを考える。そのときに見落としがちなのが行政の存在、役割だったりする。普通、村人には縁遠い役場、役所を上手に使うことも、村の生活をよくしていくひとつの方法である。スマトラの山の村の取り組みが、他の地域のヒントになることもあると思う。



村人も作業に加わる水路工事

3度目の挑戦で

スマトラからの来年の研修生は、07年、08年に続いて、シランジャイ村で選考を行った。これまでに隣のタバ村から4人、その隣のタラタジャラン村から4人を迎えてきた。今回は4人の候補者の中から、個別の面接、家庭訪問の後、元研修生たちと相談の結果、ロザさん（19才・女性）を選んだ。彼女はこのシランジャイ村から招へいが始まったときから、選考に参加してきた。3度目の挑戦で念願となったの決定となった。この春帰国したヘルマさんと組んで、村の保健衛生、保育などの向上を目的とする研修を希望している。

タバ、タラタジャラン、シランジャイに帰ったPHDの研修生の活躍は、周囲の他の村でも評判になっている。今回も、「将来うちの村からも呼んでもらえないか」とのことで、バイクに乗って30分程

のタラタダマ村にでかけ、村長、村人にPHDの説明をしてきた。

マンダレーのグループは 新しい運営に

9月に入り、ビルマへでかける。訪ねた先のマンダレー近郊は、サイクロンの被害はなかったため、例年と同じ景色が目の前にあった。景色は同じだが、村の研修生の動きに変化があった。

マンダレーの町から車で30分程のタダインジェ、そこからさらに30分のイエボのふたつの村とつながってきた。その地域に帰った研修生のまとめ役であったトゥンティンさん（93年度）が、サイクロンの被災地にボランティアとして農業指導にでかけ、新聞にもとりあげられる活躍をした。しかし、その後、個人的な事情により村に戻ってこないことになってしまっていた。そのため、残った研修生たちで、来年の研修生の選考の段取りやスタディツアーの受入れなど、これまでではトゥンティンさん一人で仕切ってきたところを複数で役割分担してやっていくことにしたという。対外的な窓口はトゥントウンさん（94年度）、会計担当はムームーさん（93年度）。先輩研修生がひとまず役を担うことになった。



ザーナウンさん（左）と家族

来年の研修生の選考は今年からはじまった三つ目の地域ミンガンで行われた。ここは8つの村の中心である。今年の研修生ボーポーハンさんは、ここから南に位置するシンプジー村からであるが、今年も9人の志望者の中から選ばれたのは北へ30分程のヨンビン村のザーナウンさん。21才の農業青年である。帰国した研修生たちとも協議し、まずは農業の研修生を優先しようということになり、彼を選ぶことになった。

総主事代行 藤野達也

夏のスタディツアー報告

インドネシア編

8月22日～31日

積極的な村づくり



タランバフンゴ町長（右）との話し合い

今回の訪問では、インドネシアの研修生たちの活発さや積極的な村づくりに励んでいる姿を目にすることができました。ひとつは、研修生たちが行政や村の人たちをうまく巻き込んでいること。役場に助成金を申請し、灌漑整備に取り組みたり、幼稚園の運営についてやはり役場からお金をうまく引っ張ってきて、自分たちの思いをどんどん現実化させていました。

次に、研修生の実行力の早さに驚き

ビルマ編

9月4日～12日

ティダさんの帰国後の半年



村のお母さんに日本で学んだことを話すティダさん

昨年の研修生ティダさんの活躍にびびり、来日前に働いていたYMCAの幼稚園の先生4人のうち2人が出産、1人が病気のため、帰国後すぐに職場へ復帰。日本で研修したことを村のお母さんたちに話し、実践しています。おやつ時間の実施。しかもそのおやつも少しづつ皆からお金を集め、村で取れたバナナと牛乳。市販のお菓子をやめたため、

便りが今後楽しみです。（三輪望）

ました。今年3月に帰国した昨年度の研修生ヘルマさんは、帰国直後から幼稚園をはじめていました。彼女が考える一週間のプログラムは、インドネシアの歴史から始まり、お絵かき、歌、コーランの勉強とぎっしり組み込まれており、彼女のやる気が伝わりました。また、週一回タバ村のミミさん（02年度）、エリさん（03年度）の幼稚園との交流会もあり、別の村の研修生同士が協働しています。そして、もうひとつ印象深かったことは、研修生同士の結び付きの強さです。日本にいるペリスマンさんの日本語がしんどいと伝えると研修生たちは輪になって夜遅くまで彼についての応援策を考えていました。それからペリスマンさんへの激励の手紙や電話が度々来ています。私たちが見ることのできない大変なことは山ほどあると思いますが、研修生たちは、得意な部分をお互いに活かし、村づくりを楽しんでいるように思えました。今後の研修生たちの頑張りを見守ってきたいです。（川原桂）



左後からトゥントウンさん、ソーウィンさん、ムームーさん、ティダさん、スウェウィンさん、デーさん、左前からスルーさん、カインソーさん、ケンターウエさん

プラスチックのゴミも減り、掃除しやすくなったそうです。

感染症を防ぐという点から、子どもそれぞれにタオルとコップを用意し、煮沸した水を持って来てもらうようにお母さんたちに指導しています。

今後は栄養のこと、保健衛生のことを簡単に説明した本を揃えてお母さんたちへの図書館を作りたいと意欲を語ってくれました。日本にいた時よりもさらにたくましくなったティダさん。便りが今後楽しみです。（三輪望）



左からミミさん、アフリタさん、エリさん、次年度研修生ロザさん、アフダールさん、ヘルマさん、マズラルさん、ダスウィルさん

帰国研修生短信

インドネシア

ハスマヤニさん（92年度）

PKK（婦人会）はなくなってしまいましたが、イスラム教についてのグループをつくりました。宗教的なグループですが、お母さん同士の子育てなどの情報交換の場になっています。

アフリタさん（04年度）

役所や村人から資金を集め、2007年12月に幼稚園をつくりました。絵や字を書いて、小学校に行く為の準備をしたり、栄養の指導、食後の歯磨きの指導を行っています。

マズラルさん（05年度）

米、さとうきび、とうもろこし、唐辛子、きゅうりなどをつくり、アルウィさん（01年度）らと灌漑のグループで頑張っています。また5月には家の隣でお店をはじめました。

ビルマ

ムームーさん（93年度）

4月に村に戻ったティダさんとYMCAの幼稚園で働いています。日本での研修を積極的に取り入れるティダさんへの期待は大。来年には、現在日本で研修中のボーポーハンさんの隣村にあるテックンジー村に引っ越し予定。新しい村では、すぐに幼稚園を始めることは難しいけれど、その村のお母さんたちと相談しながら、ゆっくり進めたいと考えています。

トゥントウンさん（94年度）

オーストラリアから支援を受けるNGO「Burnet Institute」でHIV感染者の支援活動に参加。学校に向かい予防の教育をしたり、患者を病院へつなげたり、偏見をなくす啓発活動をしています。ツアー中にお連れ合いさんが男児を出産。おめでと。

26期生研修生レポート

ペリスマンさん

8月7日～17日 坂本重夫さん（広島県三原市／米・野菜・養鶏）
 8月17日～30日 小林勉さん（岡山県岡山市／米・野菜）
 9月8日～24日 渋谷富喜男さん（神戸市西区／米・野菜）
ポーボーハンさん
 8月7日～18日 中川克敏さん（島根県川本町／米・野菜・花）
 8月18日～30日 白浜松喜さん（島根県浜田市／米・野菜）
 9月6日～25日 中野宗嗣さん（兵庫県丹波市／米・野菜・酪農）

ペリスマンさん

(インドネシア・27歳)



私は、暑い夏の下で一番元気なのは畑の雑草たち。研修中、どうしても草引き作業が多くなってしまいがちですが、有機農業ではこれも大事な作業です。しかし、日本語の上達度が若干心配されたペリスマンさんでしたが、大切なことはしっかり坂本さんから教わってきました。

まずはボカシ肥の作り方。材料、発酵、施肥の方法について学んだことを後日、事務所で行った振り返りで詳しく説明してくれました。また、くん炭の作り方や使い方もよく理解しており、村で実際に使いたいと積極的です。

休みの日には宮島観光にも連れて行ってもらい、日本の文化を楽しむ機会もありました。感想で、もう一度行きたい

暑さ厳しい夏本番のこの時期、研修生たちの日本語も随分上達してきました。日本の生活にも溶け込み、より周囲が見えるようになってきたところで、これまでの研修生と同じように兵庫県外に出て、中国地方でこだわりの農業を営んでいる農家を1ヶ月の間に2軒回りました。

ペリスマンさんは、広島県三原市の坂本さん宅で10日間お世話になりました。ここでPHD研修生が学ぶのは3年前に引き続き2人目です。野菜と米の栽培の他に、鶏を500羽飼育し、また、土着菌を用いたボカシ肥作りを行ったり、自然農法を取り入れたりと、色々なことに取り組んでおられます。



くん炭作り（広島県三原市）

休みの日には宮島観光にも連れて行ってもらい、日本の文化を楽しむ機会もありました。感想で、もう一度行きたい

研修先へ挙げるほど、10日間では短かったかもしれませんが、坂本さんに電車に乗せてもらい、次に向かったのは岡山です。三原市から隣の岡山まで電車の中は一人旅でした。岡山駅で迎えてくれたのは、いつも岡山の研修時にお世話になる方ともう1人、インドネシアからの研修生、ラディアエリタさん（94年度）でした。ラディアエリタさんは現在、岡山の大学で勉強中です。出身地域が離れていれば、国に帰ってもなかなか会う機会のない

研修生同士、日本で交流を深めることが出来たのも、一つ収穫だったと言えるでしょう。

岡山でお世話になった小林さんは、農業をするかたわら、東南アジア方面で農業支援の活動もされています。そのため、ペリスマンさんにとっては自分の村の状況を良く理解してもらい、指導してもらったための良いチャンスでした。

しかし、研修開始後、あいにく雨が続き農作業も研修も、思うようにはかどりませんでした。その中で、小林さんに教わった大きなポイントはふたつ。唐辛子やにんにくから作る自然農薬と輪作についてです。年中過ごしやすい気候のシランジャイ村周辺は野菜に付く虫が多く、栽培を難しくしています。今回教わった自然農薬はきっと役に立つと期待します。また、村で盛んに栽培されている唐辛子。しかし、毎年同じ畑で栽培し、病気もよく発生します。まだ理由は分かりませんが輪作を試してみる価値は充分にあります。

9月に入り、今年は例年より少し涼しい日が続く、農業研修には良い気候となりました。渋谷さん宅では毎年研修生がお世話になり、更に、インドネシアの研修生の村にも視察に行っていたことがあるため、ペリスマンさんの村の状況もよく伝わります。

さらに、ペリスマンさんの日本語もより上達してきたこともあって、新しいことを教わったり、これまで学んだことを復習できたりしたようです。この研修で一番興味を持ったことの一つが、堆肥に配合する各材料の成分（チツ、リン酸、カリ）についてです。併せて肥料のやりすぎは野菜が病気になることも学びました。野菜の成長具合を観察しながらどの材料を施すか、これからは一層の工夫が出来そうです。

ポーボーハンさん (ビルマ・25歳)



くさでたいひつくりかたをべんぎょうしました。わたしのあらではくさをとります。今日本でくさをたいひつくりかたはべんぎょうになります。

なえをつくる土をべんぎょうしました。日本のなえをつくる土はくんと山の土を混ぜます。くさがないです。わたしのあらはなえをはたけにしますからくさがたくさんはえます。なえの土つくりかたもべんぎょうになります。

ペリスマンさんが広島で頑張る一方で、ポーボーハンさんは島根県川本町で研修を開始しました。中川さんは既にPHD研修生を7人（内ビルマからは1人）をこれまで受け入れていただき、減農薬栽培で、経済性、合理性を追求しながら農業を営んでいます。そんな中川さんからはこれまでの研修とは少し違った考え方も学ぶことができたはず。到着当日、夕食までの時間、早速出荷野菜の袋詰めを手伝いました。ポーボーハンさんの村は、他の研修生の出身地域に比べても、町までの道は整っているほうで、出荷に伴う労力は少なくてもありますが、日本で出荷作業を体験したことで、何か参考になることあったのではないかと思います。

野菜の栽培に関して学べた技術的なことは、まず、輪作についてです。ポーボーハンさんの出身地でも、やはり毎年同じ土地で同じ野菜を栽培する連作が多いようです。そのため、結果的に化学肥料の使用量も増えており、地力の低下が懸念されます。ポーボーハンさんの村の畑は比較的広いことから、輪作については直ぐに実行できそうです。他に、刈り取った草の利用方法についても学ぶことができました。意外にも(!?)村では刈り取った草は燃やしてしまい、他の用途に利用していないようです。中川さん宅では、刈り取った草をピニールマルチの上から更にそれを覆うようにして使うことにより、地温を調節することを教わりました。



乳牛の世話（丹波市）

次は島根県内を少し西に移動し、同じ山間部の村で自然農法を営む白浜さん宅で2週間弱お世話になり、良い経験をさせてもらいました。

こちらでは野菜を不耕起で育てており、その畑の土は他の畑のものとは構造が異なるのが、土を比べてみると良く分かります。自然農法における土づくりへのこだわり、そして、土づくりや苗を育てるために初穀をくん炭にして利用する方法は、初穀を主に燃料としてし

かわない村では目からうろこだったに違いありません。

研修中、白浜さんと一緒にケーキ作りに挑戦したり、また、自ら腕を振るいサモサを作ったりと、料理好きな一面も見ることができました。

9月に入り、研修場所も再び兵庫県内に戻りました。ビルマでは牛は生活に密着した大切な動物。牛肉を食べない人も沢山います。しかし、乳を搾って飲んだり、練乳を作ったりすることは盛んです。そこで、過去のビルマからの研修生も何人かお世話になった中野さん宅で、ポーボーハンさんも研修を受けることになりました。

中野さんは酪農だけでなく、米や野菜も育て、牛を中心とした畜複合経営に取り組んでいます。そのため毎日がとても忙しい作業の連続です。そんな中、ポーボーハンさんは中野さんが牛の餌にEM菌を混ぜていることを知りました。技術的な話は今のポーボーハンさんにはまだ難しく、詳しい話を聞くまでにはいたりませんでした。EM菌は村でも手に入るとのことです。帰国までにはもう少し分かるようになっておきたいと、新たな研修目標が出来ました。

この2ヶ月間、研修生は日本語が上達した分、習得したことは量、質ともに充実していたようです。秋から冬にかけての研修では、これまで学んだことの復習をしつつ、改めて村に戻ってから何が出来るのかを考えながら、研修に取り組むことが求められます。

第27期生ホストファミリー募集



ビショ ジット ラマさん
ネパール・22才・男性

期間
経費
応募条件



ロザノベルマさん
インドネシア・19才・女性



ザーナウンさん
ビルマ・21才・男性

2009年4月中旬～2010年3月中旬
 当会の規定により、食費と滞在費をお支払いいたします。その他、交通費、医療費などは基本的に当会が負担します。
 当会事務所から公共の交通機関で1時間以内で通える範囲。

8月9日は10人の人がアジアの村へ スタディツアー参加者報告



インドネシア

研修生たち

PHD協会がソロ郡から研修生を受け入れ始めたのが1999年度。それから現在までに9名が終了し、いまは10人目が日本で研修中とのこと。われわれはこの9名すべてに会うことが出来る。研修生全員がもとの地域に暮らしていること自体、たいへん意味あることだと思ふ。しかもこの人たちが日常的にも会合を重ねている様子が容易に想像できた。彼・彼女たちが地域の「開発の担い手集団」になっている様子が窺える。とりわけ、幼児教育の取り組みでは地域のニーズにうまく適合したようだ。他方で、農業といった生産・経済活動の分野はなかなか進展が難しいというのも理解できた。しかし、灌漑水路のような生産基盤整備事業（インフラ事業）にもこの集団が力を発揮して完成させた実績があるので、今後生産部門での活躍が期待できるだろう。

(齋藤千宏・教員)

農家の悩み

農業に従事している元研修生に研修の成果をどう活かしているのかという話を聞かせてもらった。米、唐辛子、さとうきびが主な作物で、日本で学んだ有機農業を取り入れたことにより、収穫量が増えたとのことだった。しかし、

一方で、日本で学んだいろいろな野菜や果物を作りたいが、唐辛子以外は、近くの市場では売れる量が限られており、豊作だとすぐ値が下がってしまうのだという。また、スイカを作ったことがあったが、市場へ売りに行くのに運送手段がバスしかなく、スイカのように大きくて少ししか持っていけない物は、バス賃を払うとお金はあまり手元に残らないとのこと。野菜や果物など換金性の高い作物を作っていくようになるには、より大きな消費力を持つ市場への効率的な運搬力の確保が鍵になると思われるが、トラックの共同購入などの方法が採算に合うのかどうかむずかしいところのようだった。

(西尾秀男・元会社員)



研修生集まる様子

新たな研修生を選出

今回のビルマ訪問の重要な目的である、来年の研修生の選考が行われました。集まってきた大勢の研修希望者を前に、この選考に際し研修経験者の意見を聞き村のニーズに合致しているかどうか入念に検討し、次の研修生を選出しているところに好感を覚えました。保健衛生・保育・洋裁・農業に関する支援という視点から、PHDは人材育成という重要な面で寄与している、その現場を垣間見た思いです。

直播の水田

今回視察で訪問した4つ目の村では、数年前から水稲の直播栽培を始めています。インドでは普通に行われている直播栽培も、収量が落ちるという理由からビルマでは数年前までは受け入れられていなかったようです。しかし田植えの際、労力が要らないことや、苗づくりの手間が省けることがメリットで、収量は慣行栽培に比べやや減りますが、遜色ないレベルの量が収穫できているということです。生えむら・粗密のばらつき具合が収量に影響しないか気になりますが、このような技術面でほ場の均平化や発芽率・初期生育確保などが経験的においづれきたとみられます。(T.K.・農業)

国の基礎となる教育の問題

ビルマという国名であったミャンマーは、一時期、経済でも、教育でも、東南アジアのトップクラスでした。しかし、シンガポールの元首相の言葉を借りれば「(広い農地や豊富な鉱物資源がありながら)どうしたらこんなに貧しくなるのか」という、“最貧国”を示す状況は村のあちこちに見られます。学校の建物は何とか雨露をしのげますが、内部は教室の区切りもなく、ほとんど塗装のはげてしまった古い黒板と長いす形式の机のみです。日本の学校ではあたりまえのように見られる教材や教具、教育機器類はありません。学校を終えて帰ってくる子どもたちは、日本の子どもたちと同様、いやそれ以上に明るく元気ですが、国の基礎となる教育環境は決して十分とは言えないと感じました。(北山敏和・元教員)



JICA兵庫主催の高校生対象の国際協力を考えるイベントに協力団体として参加。参加校の1つである三木東高校の3年生12名とフェアトレードについて学習会をし、10月4日グリーンピア三木にて販売実習を行いました。

間にそれぞれの家庭で織ったもので、コースターやポーチやカバンなどに加工します。2006年にはこのお母さん達の中から、ボーディーヤさんが研修生として来日しました。『ソディ』が生まれてもうすぐ20年、村も急速に発展していく中で、伝統を守っていくことの難しさを感じる時もあります。でもゆったりとんびり、カレンの村と同じ雰囲気が続けていけたらと願っています。(ソディ・メンバー 安本真理子)



布のグループ『ソディ』をご存知ですか？タイ、カレンの草木染め・手織り布の販売のお手伝いが私たちの活動です。メンバーは女性ばかり5人ほど。月に一度ミーティングをし、バザーでの販売を行い、時にはセミナーを開いたり活動しています。この布はタイ、カレンのお母さん達が家事や農作業の

第13期国内研修生



職員佐々木とボランティア松本直樹さん(右)との座談会を通して木下和磨さん(左)を紹介しました。

松 まず、最初に自己紹介をしてください。木 木下和磨です。関西大学4回生で、商学部在籍しています。商学部なのですが、卒業論文ではインドのカースト制について書いています。松 インドのカースト制について調べきっかけは何だったのですか？木 大学に入って海外に旅に出るようになり、インドに行きました。人々の生活格差は激しく、特にコルカタでは路上で生活をしている人々がそこらじゅうにいます。その横を平気な顔して富裕層が歩いています。ここまで極端な生活格差がインドにあることに驚き、カースト制度について調べ始めたことがきっかけです。佐 海外に興味を持ち始めたのはいつ頃からですか？木 小学校の頃、バスケットボールをやっていたので、NBAに興味を持ち、そこからアメリカの政治、音楽、映画にも興味を持ちました。その頃は、

海外＝アメリカだと思っていました。アメリカは絶対的な力を持っていて、世界の中心だという考えがあったのだと思います。それが海外に興味を持つきっかけだったと思います。その頃はアメリカに移住したいと思っていました。

佐 アメリカ以外の海外に興味を持つきっかけは何ですか？木 高校2年生の頃に友達のお父さんがバックパッカーで、カッコいいなと思い、バックパッカーの本を買って読みました。東南アジアに10万円程で行けたと載っていたので、タイに行きました。それまではアメリカなどの先進国だけに目が向いていたのですが、それぞれの国にはそれぞれ色があることを知り、先進国にないものが発展途上国にはあるように感じました。特にバンコクは印象深く、首都であるのに大雑把で、人もゆっくりしていることに驚きました。佐 何か国くらい行きましたか？木 マレーシアやモロッコなど9カ国に行きましたが、イタリアで忘れられない思い出があります。女の子数人に囲まれ、財布を盗まれました。取り返そうと戻ると、小さな女の子だけが残っていたので、警察に連れて行きました。結局その子は常習犯だったので、警察から「彼女が生きていくには、モノを盗むか、学校で勉強するか、どちらが良いと

思うか」と質問されて、答えることができませんでした。物事は自分が考えるよりもっと複雑で、今まで何も知らずに海外に行っていたんだと気付きました。その後イギリスでホームレスの人々のお世話、インドのマザーテレサの家でボランティアをしました。

松 来年から社会人ですが、4月以降この研修をどう活かそうと思っていますか？

木 NGOだけではなく国内問題を扱っているNPOにも興味があるので、ここで学んだことと今まで培ったものを国内で活かせば良いと思っています。自分のためだけでなく、人とのつながりの中で喜びを見出すことのできる活動に参加することで人々が共生できる社会作りを率先して行いたいと思います。企業の社会貢献が注目されています。企業は利益の追求のためだけでなく、社会的責任も負う立場になりました。そこで今のこの流れを生かし、PHD協会が学んだノウハウをもって、よりよい社会作りに貢献したいと思っています。今の時点では理想ですが、少しずつ実現していきたいです。

松 木下くんのように意欲がある方を迎えるので、スタッフ、ボランティアも今後の活動を共に頑張っていきたいですね。



この夏は4人のインターン

最終日 発表会の様子

昨年(2007)に続き8月、9月に10日間、佛教大学3回生のインターンを4人受け入れました。今年(2008)はそれぞれ興味のある分野を事前に聞き出し、研修活動や啓発活動に携わって頂きました。最終日には研修発表会を行いPHDで学んだことを発表してもらいました。PHD協会では、インターンを随時受け入れています。興味のある方は、是非ご連絡ください。(山中裕太)

インターンの感想から <国際協力とは？>

何もかもが新鮮で、戸惑うこともあり「国際協力って一体何なんだ？」と自問自答の毎日でした。「国際協力」というのはいつもの視点からみられるものであり、決して答えはひとつではないということ、そしてそこから生まれるさまざまな協力方法があることを学びました。(川村央)

<ボランティアの方々の関わりの大切さ> PHD協会の活動を支えて下さるボランティアの方々がほぼ毎日来られていて、NGO/NPOにとってボランティアに来て下さる方の大切さを感じました。ぞの方たちが気持ちよく活動できる場づくりの重要性にも気付くことができました。(山中裕太)

8月24日	アイハウス夏祭り
8月22~31日	インドネシア・スタディツアー
9月1日	神戸市シルバーカレッジ国際友の会 研修経過報告
9月4~12日	ビルマ・スタディツアー
9月16、17、19、20日	関西国際大学集中講義「NGO論」
9月18日	帝塚山学院大学講義「ボランティア論」
9月22日	聖和大学講義「アジア文化論」
9月30日	兵庫県立神戸甲北高等学校講演
10月1日	兵庫県立三木東高等学校 「北タイ・カレンの布について」学習会
10月4日	兵庫県立三木東高等学校バザー
10月5日	加古川ガールスカウト24団 交流会
10月11日	河内長野市国際交流協会講演
10月12日	ロハスフェスタ・バザー
10月13日	太陽と緑のまわり・バザー

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2008年 8月 74件	¥658,640
9月 58件	¥1,796,003
132件	¥2,454,643

上記の通り、多くの皆様よりご浄財を賜りました。また日本労働組合総連合会様からもご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。

今年も年末募金の時期を迎えます。収入実績が例年以上に厳しい状況の今年です。PHD活動の更なる推進のため、皆様からのご支援をお願いいたします。

◆農林業体験プログラム

「里山保全活動とシイタケ栽培」

当会が取り組んでいる里山活動の一環として、この冬から椎茸栽培を開始します。今回はその準備として原木の伐採をします。午後からは講師をお招きして勉強会を行います。

日時 12月7日(日) 10:00~15:00

場所 兵庫県篠山市大山

参加費 1000円(予定)

(交通費は別途)

◆チャリティコンサートからご寄附

9月27日(土)、米谷収理事が代表を務める「ライス・ヴァレーA.C.」の設立10周年を記念して、神戸外国倶楽部においてチャリティジャズコンサートが開催されました。150名を超える参加があり、心地よいジャズ演奏をはじめ寄席

PHD PHD運動拡大キャンペーン! (予告)

運動拡大キャンペーン

2009年3月20日~6月20日

30周年を前にPHDは前進します。

PHD協会は活動を始めて今年で28年目。

提唱者岩村昇先生の想いを受け継ぎ、さらに前進する運動体をめざし、より多くの方にPHD活動を知っていただきたいと思います。

一人一人の皆さんがPHD運動の担い手です。詳細は次回会報で。

など楽しい一時のなか、PHD活動に対してご寄附をいただきました。

◆インターネット寄附はじめました

パソコンから気軽に募金できるインターネット募金に登録しました。イーココロのホームページを通して買い物、資料請求などを行うとポイントがたまり、金銭の負担なく寄附ができます。

1. PHD協会のホームページにある下記バナーをクリックし、サイトに入ってください。
2. 会員登録(無料)してください。
3. 募金先NGOをPHD協会に指定してください。



◆書き損じの年賀状やハガキが役立ちます

書き損じた官製ハガキ、年賀状がありましたら、PHD協会までお送りください。新しい切手とハガキに交換し、日々の郵送料として活用させていただきます。

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました



前回の会報でアンケートへのご協力をお願いしました。合計83人の方から回答をいただきました。本当にありがとうございました。研修生支援とあわせ、

日本に住む私たちが、私たち自身の行動として日々の生活を少しでも振り返るきっかけとなるような会報を作りたいと考えています。フェアトレードという言葉をよく耳にしますが、PHDのフェアトレード商品でもあるカレンの女性が織る草木染めの布の活動を支援しているソディ。食の問題、環境の問題を身近なところから考える「同じ買うなら使うなら」。皆さんのご意見を参考にさせていただき、さらに存在感のある記事作りをしていきます。ご期待ください。

○月×日のPHD協会

国内研修生 木下 事務所に来られるボランティアさんに自己紹介。「あなた、日本語上手やねー。漢字もわかるん、えらいねー」と海外研修生扱い。

職員 藤野 傘なしで濡れて信号を待っていると、隣から傘をさしかけられる。誰か知った人かを見ると、見知らぬおっちゃん。ありがとう。いい気分。

職員 高垣 今日は近所のうどん屋に。混み合う中の合席は坊主頭の二人連れと。後ろの席にはその親分。ヤっちゃんに囲まれた神戸のお昼時。

職員 川原 昔から好きだったインド映画へのあこがれがますます募り、今の夢は映画に出演すること。ダンスの練習に週一通い、けっこう本気?

職員 佐々木 差し歯が欠け、やむなく大嫌いな歯医者通い。長年のほったらかしが、そこだけでなくあちこちの問題に。徹底治療に時間がかかる。

職員 三輪 歯医者の勧めに従っての定期検診が心地いいそう。ひどくなったからの治療は痛いけど、早目の処置はかえって快感。見習おう佐々木さん。
(生命線の長い順)

編・集・後・記

9月から11月は編集期間が短い。編集会議の連絡をしても「あれ?前やったところじゃない?」と言われる。それでも会議で喧々譁々。途中退席、途中参加ありの白熱した土曜日2時からの会議。参加したい方は非ご一報を。「溢れる想いを言葉に」をキャッチフレーズに、自ら原稿を書き、原稿を皆さんに依頼しているが、たまに溢れ過ぎてスペースが足りなくなることも。読み難くてすみません。(み)

制作協力: 菅原宗晋 増本一朗
坂井時和 松本"顧問"直樹

-再生紙を使用しています。